

改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 8月号 (NO76)

2016年8月10日 (水) 発行 (毎月10日)

【農暦】汗して働くことは良いものである！

○今日 (29日) は朝から空の青さも雲も替わって一挙に夏の青空になっている。一昨日に梅雨が明けたというが、昨日までは梅雨の空で、曇天の時々雨模様になる天気であった。東京都の山奥の檜原村に行っていた。柏の環境仲間と同じメンバーのYさんからの誘いか勝手な押しかけか定かでないが行かせて頂いた。若い頃、山の仲間とボッカ訓練で三頭山に登った思い出があるが、あいまいな記憶からであるがイメージしたものとは大分違っていた。自然がいっぱいの村で谷は深く平地がほとんどない。こんなところに住めるのかといった感じがしたが、人間の知恵や歴史が色濃く刻まれた美しい村であった。桃はなかったが自然に満ちた桃源郷である。村の財政は9割が国や都からの交付金だというから、いわゆる限界集落に近い。だが、あって欲しい村である。都区民の癒し?の施設がいくつかあった。こんな近いところに、こんなに素晴らしい自然がある。活用しないでは宝の持ち腐れになってしまう。と思った。

○極近くにあると云うので予定には無かったが、中曽根元首相の日の出町の山荘を案内してもらった。ロン・ヤス会談で有名になったところである。古民家を移設して作ったという山荘も良いが周りの自然も素晴らしかった。管理の手が入っているのだと思うが、自然と融合した素晴らしい古い日本の文化の雰囲気を感じた。

○自然をいっぱい含んだ良いものに触れる感じがした2日間を楽しめた。Yさんのプロ以上の運転裁きで、ひたすら山道を走ったような気がした。檜原村を全部見せてもらったような気がする。多謝多謝である。また、こんな処が、日本のあっちこっちで消滅して来ると思うと寂しいものがある。(29日記)

○笠間滞在のパターンが詩吟や檜原村へ行くなどで変わってしまい、まる7日間あけてしまった。草の繁茂やトマト、茄子、ピーマン、ブロッコリーなどが心配でパターン修正も兼ね見に行った。一目見て荒れて来ていると感じた。伸び始めた葛、畝や通路の草が景色を変えていた。一瞬やる気が削がれたが頑張った。ガルデン入居時に、都会の人は草取りが好きと聞くことがあった。半分は当たりで、汗して草取りすることに癒しを感じたこと



＜檜原村の民家＞深層の森に民家が点在。民宿乗越の近くで、28日撮影

がこのように見えたのだと思う。草取りが好きな訳ではない。草取りが労働と感じた時から意味が変わる。だが、身体を使うことは喜びがある。今、草払機で畑の景色を少しだけ戻し、大汗を流し喜んでいる私がいる。農作業は良いものである。(1日記)

【楽農】大汗を流し頑張る！

<畑A>;ブルーベリー、茄子、ピーマン、枝豆など少量収穫。

草払機で除草

<ハウス>; トマト、パプリカの収穫、除草

<畑B>;、落花生、黒豆、小豆の除草。

草払い機、サンカクホウで除草

*隣地の葛、周辺の除草。

**草の繁茂力に負けそう、大汗を流し頑張る！。



<僅かな平地の畑>電気
柵が、檜原村で。28日撮

【楽市】イベント交流・直売など

○その他;陶芸講演とアルパ演奏会(15日)魅力発信隊・中国児童民泊の説明など(21日)文月会・山野草の会(22日)笠吟連合同練習(24日)檜原村の散策(27-28日)共生つばさの会(4日)に参加など。



<陶芸講演とアルパ演奏>
芸術?はいい。15日撮影

【つぶやき=Tweet】小池・女性つながりで、こんな話に！

- アモーレの話(土楽6月号)で下重暁子の“若者よ、猛省しなさい”から引用したが、これが連載されている集英社の読書情報誌の8月号が送られて来た。ここに「老いの戒め」下重暁子著について小池真理子が書評していた。“年をとったら器量よしになりたい”“無敵ともいうべき愛らしさに触れつつ、「老い」を受け入れ、「老い」を楽しむことを教えられる”との文言が気になった。それと同時に、アモーレの話の中の引用で、小池真理子を小池百合子と誤っていたことに気が付いた。全く違う人で誤る筈がないほど差異がある。失礼を詫び訂正する。
- 「老いの戒め」の書評を読んだ後に、元プロテニスプレーヤーの杉山愛のやりたいことリスト100件の話を聞いて、自分でも書き出して見たくなった。35件書き出していた。その中に素敵なから始まるものが5件あった。素敵な庭づくりから、畑、老人と続く、老人には心と見た目の2つあった。見た目にはチビでもと付記してある。「年をとったら器量よし」の文言に繋がるのかもしれない。自分でも面白いと思ったのは“友人以上親友未満の人”である。軽くてはつまらない、重くては疲れると注記がある。
- 相田みつをのトイレ・カレンダーの7日には”あなたの、ところが、きれいだから、なんでもきれいに、見えるんだ、なあ”とあった。世の中が、政治が、汚く見えて仕方がない。ところが汚いから汚く見えるのだとは思いたくない。弱者を、平和を大事にしない、今の

政治を、政治家を、批判しないではいけない。自分の言ったことは自分に戻るといふ”言霊（ことだま）“があるというが、自分の言葉で楽しくなくなる。”笑う門には福来たる（笑門来福）“というが、批判の言葉を発した後は心が重くなる。笑ってばかりいられない世相がある。言霊に許しを乞うしかない。

○都知事選の投票時間が過ぎたばかりであったが気になっていたのでテレビの選挙速報を見た。開票率0,1%で小池百合子が当確であった。今の政治状況などの雰囲気をもよく取り込んだ小池百合子の圧勝である。演出もうまかった。貧者・弱者を増幅させ、改憲勢力3番の2になった政治の流れにストップを掛けて欲しいと期待したことからすれば最悪ではなかったと思えた。増田寛也よりはましに見えた。小池百合子に投票した多くの無党派の人たちも同じように見たのかもしれない。だが、安倍首相と固い握手する姿を見て。政治信条など同じだったのだと気が付かれた人もいたのではと思った。丸川、稲田、高市各大臣も同じで同じ政治の流れにある人が勢揃いしている。

○女性の社会進出は大いに歓迎されるべきことであるのだが、危惧されることの方が多い？。英国も女性の首相、米国ではヒラリーが大統領候補に指名された。女性の進出の流れが出来ているように見える。男社会の傀儡^{がいらい}に見える人も多い。女性性を大事にしたリーダーであって欲しい。政治信条を越え、都民のための行政に、大きく膨れ上がった不透明なオリンピック予算も正してと期待したい。子供世代に負の遺産は少しでも小さくしたいと願うからである。敗北した鳥越俊太郎は週刊文春に女性問題の記事が載った。舛添元知事の告発とのバランスをとったのではないかと勘ぐってしまう。真偽のほどは判らないが、選挙に影響は否めなかったと思う。

○弱者が益々増える社会にあつて「ヒトラーの思想が降りて来た」と相模原障害者施設殺人事件は怖い。平和だった社会の潮目の変化を象徴する社会事象だったら恐ろしい。世界では弱者の不満が政治に影響を与えつつある。右か左か、差別か、共生かが問題だが、米国の大統領候補の選挙に典型的に表れている。小池繋がり、こんな話にしてしまった。

【後記】兔に角除草で、プリン体offで。笠間に、kogure農場にお越し下さい。HPに転載しています。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<福の神・狂言の面>数馬の湯で、いい顔を。27日撮影



<柏・町会の祭り>ビール片手に、久振りの顔が。16日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.com
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>